

デジタルプラットフォームについて

ワーキンググループ・事務局意見集約

1. デジタルプラットフォームの考え方

■想定するデジタルプラットフォームの機能

- ・オープンデータの公開（行政・民間）
- ・行政課題・地域課題の提供、課題解決のための議論場の提供
- ・企業や団体の紹介・活動報告や繋がる場の提供
- ・クラウドファンディング

■デジタルプラットフォーム

○新たにシステムを構築

- ・メリット … 近江八幡市の考える規格に沿ったシステムが構築できる。
- ・デメリット … アプリのインストールやアカウント登録の必要があるため、参加へのハードルが上がる。
システム導入に経費がかかる。

○既存のシステム（SNS）を活用

- ・メリット … 既に多くの人がSNSを利用している。
新たなアプリへの登録の必要がないので、オープンガバナンスに参加しやすい。
システム導入にかかる経費を抑制できる。
- ・デメリット … 既存のシステムに合わせた運用になる。
- ・その他 … 匿名等での投稿もできるので、意見を言いやすいが、無責任な意見になる恐れがある。

2. オープンガバナンスの運営体制

オープンガバナンスを実行するにあたり、運営主体(団体)が必要となる。

○運営主体の役割

- ・プラットフォームの管理
- ・オープンガバナンスの周知・広報、参加への呼びかけ
- ・ファシリテーターの育成 など

○運営方法

- ・令和3年度の試行的運用では推進協議会が担う。
- ・民間団体による運営を考えているが、受け入れ団体がない場合推進協議会を母体に検討する。

3. 近江八幡市版オープンガバナンス (デジタルプラットフォーム)の課題

- 現在もリアル会議や各委員会、パブリックコメント等オープンガバナンスまたはそれに近い取り組みを実践している。これら取り組みとの整合性。
- 市民の参加を促す方法。
- 議論のまとめ方。決定方法。
- 要望の場ではなく議論の場とする仕組み。
- 市民自らが解決する意識の醸成。
- 議論を取りまとめるファシリテーターの育成。
- オープンガバナンスの運営体制。
- システム導入にかかる経費（導入経費・ランニングコスト）。
- オープンデータ（情報公開）の内容（出し方・見せ方）。
- 議論の結果、市で実施するとされた事業の立案、実施。

4. SNSを活用した場合のスケジュール

